



株主のみなさまへ

第122期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日



写真：箱根ホテル小涌園（神奈川県）
発注者 藤田観光株式会社

子どもたちに誇れるしごとを。



清水建設は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

株主のみなさまへ



取締役会長 宮本 洋一



取締役社長 井上 和幸

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申しあげます。

ここに、第122期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）上半期の、当社グループの業績及び事業活動の概況についてご報告申しあげます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変わリませぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2023年12月

INDEX

株主のみなさまへ	1	シミズのものづくり	7
社長メッセージ	2	ESG経営への取組み	9
業績ハイライト	3	当社グループの主なニュース	11
トピックス	5	主な完成工事	巻末

社長メッセージ

はじめに、本年、当社は創業220年目を迎えました。これもひとえに皆様方のご支援とご厚情の賜でございます。ここに心より感謝申し上げます。

経営環境については、社会経済活動の正常化やインバウンド需要の復調等により、景気に緩やかな回復が見られております。一方で、世界的な物価高や各国の金融引き締めに加え、不安定な国際情勢など、世界経済の減速懸念があり、今後も状況を注視していく必要があります。

建設業界においては、公共投資の底堅い推移と民間設備投資の持ち直しの動きが見られましたが、供給面では、建設資材・エネルギー価格の高止まり等による影響があり、また時間外労働の上限規制の適用開始が来春に迫るなど、厳しい経営環境が続いております。

このような環境下、当社は「中期経営計画〈2019-2023〉」に基づき、以下の取り組みをはじめとする事業活動を積極的に推進しております。

建設事業においては、大規模プロジェクトへの対応力強化や革新的な技術開発の成果の一つとして、本年6月に、高さ日本一の「麻布台ヒルズ森JPタワー」が竣工しました。同プロジェクトでは、当社グループの技術力とマネジメント力の粋を結集するとともに、最先端の建設ロボットやICT・AI技術を駆使し、デジタル技術にも磨きをかけました。ここで得られた技術と知見を今後のプロジェクトにも活かすとともに、建設業の担い手不足が懸念されるなか、「ものづくり（匠）の心を持ったデジタルゼネコン」として、建設業におけるDXを加速してまいります。

また、今後我が国における洋上風力発電の導入拡大が見込まれるなか、洋上風力発電施設施工のために当社が建造した自航式SEP船「BLUE WIND」は、富山県入善町沖・石狩湾新港の各プロジェクトにおいて、その性能を大いに発揮し、洋上の工事を無事完了する

ことができました。当社グループは今後も、再生可能エネルギー事業に着実に取り組み、脱炭素社会実現へ貢献を進めてまいります。

さらに江東区潮見において、イノベーションと人財育成の拠点となる「温故創新の森 NOVARE(ノヴァーレ)」の一部運用を開始しました。NOVAREでは、「SHIMZ VISION 2030」に掲げる「事業構造・技術・人財」の3つのイノベーションの創出と融合を目指すとともに、50年先、100年先の当社グループと社会の発展を支える人財の育成を進めてまいります。

サステナビリティ分野への取り組みについては、今年度、「サステナビリティ委員会」を新設し、重要事項については取締役会に報告を行い、監督を受ける体制としております。引き続き、実効性の高いESG経営の実現を図ってまいります。

当社グループは、これからも社会の期待を超える新たな価値を創造していくために、社是「論語と算盤」のもと、未来への挑戦を続けてまいります。



業績ハイライト

連結売上高

(億円)



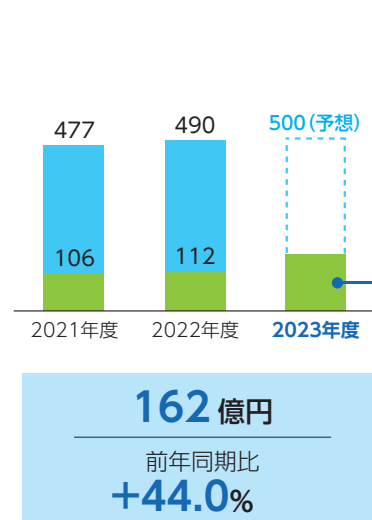
連結経常利益

(億円)



連結当期純利益※

(億円)



■ 通期 ■ 上半期 ※連結損益計算書上の「親会社株主に帰属する当期純利益」

■ 当上半期の業績について

当社グループの当上半期の売上高は、当社単体における手持ちの大型工事が順調に進捗したことなどにより完成工事高が増加したことから、前年同期に比べ13.4%増加し9,368億円となりました。

利益については、工事採算の低下に伴う完成工事総利益の減少などにより、経常利益は前年同期に比べ63.9%減少し51億円となりました。当期純利益は、特別損益に保有株式の売却に伴う固定資産売却益などを計上した結果、44.0%増加し162億円となりました。

■ 通期の業績見通し

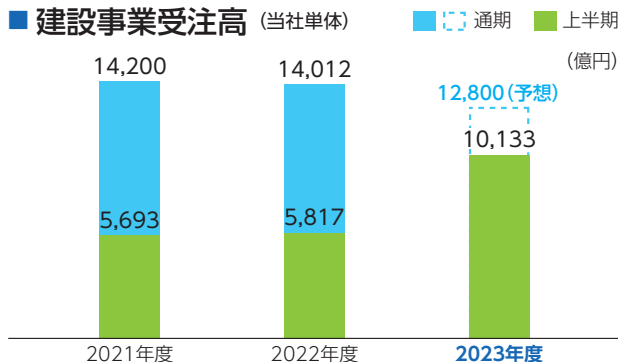
2023年度通期の連結業績は、売上高1兆9,450億円（前期比+0.6%）、経常利益540億円（前期比△4.5%）、当期純利益500億円（前期比+1.9%）を見込んでおります。

なお、このうち建設事業は、売上高1兆6,950億円（前期比+0.1%）、売上総利益1,260億円（前期比+13.4%）、非建設事業は、売上高2,500億円（前期比+4.2%）、売上総利益470億円（前期比△5.9%）を見込んでおります。

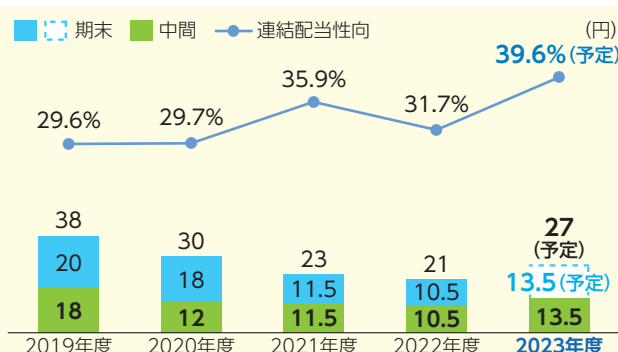
■ 事業別情報 (連結)

	売上高		売上総利益	
	上半期	通期見通し	上半期	通期見通し
建設事業 国内建築事業・国内土木事業・海外建設事業	8,423 億円 前年同期比 +14.2%	1兆6,950 億円 前期比 +0.1%	376 億円 前年同期比 △23.2%	1,260 億円 前期比 +13.4%
非建設事業 投資開発事業・エンジニアリング事業・LCV事業・フロンティア事業 他	945 億円 前年同期比 +6.8%	2,500 億円 前期比 +4.2%	143 億円 前年同期比 +26.2%	470 億円 前期比 △5.9%

■ 建設事業受注高 (当社単体)



■ 1株当たり年間配当金の推移



■ 主な受注工事

建築 工事	三菱地所株式会社	大手町二丁目常盤橋地区第一種市街地再開発事業 (TOKYO TORCH) Torch Tower (B棟) 新築工事
	三井不動産レジデンシャル株式会社	(仮称) 大阪市北区堂島浜二丁目計画
	学校法人早稲田大学	西早稲田キャンパス52, 53, 54号館建替工事
土木 工事	関東地方整備局	令和5年度 東京国際空港空港アクセス鉄道開削部 (P3駐車場前) 躯体築造工事
	東海旅客鉄道株式会社	中央新幹線関東車両基地ほか新設

■ 自己株式の取得状況 (2023年10月31日時点)

資本効率の向上による更なる企業価値の向上を図るため、2023年4月26日開催の取締役会において自己株式取得にかかる決議 (取得総額上限200億円、取得株式数上限3,200万株) を行い、10月末までに累計124億円 (1,325万株) の市場買付を実施いたしました。

その他財務情報の詳細は
当社コーポレートサイトを
ご覧ください。



■ 国内最大級の再開発事業「虎ノ門・麻布台プロジェクト」が竣工

2019年8月に着工した国内最大級の再開発事業「虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業」。「麻布台ヒルズ」と命名され、11月24日に開業しました。

当社は本プロジェクトにおいて、現時点で国内最高層、高さ約330mの「麻布台ヒルズ森JPタワー」、同約240mの「麻布台ヒルズレジデンスA」の2棟の超高層ビルと「ガーデンプラザC」、さらには街の基盤となる公共インフラの施工を担当。「Modern Urban Village ～緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街～」という開発コンセプトの実現に寄与してきました。

当社は今後、本プロジェクトで得られたプロジェクトマネジメントのノウハウ等を活用し、大規模プロジェクトに取り組んでいきます。



左：麻布台ヒルズレジデンスA
右：麻布台ヒルズ森JPタワー

■ イノベーション拠点「温故創新の森 NOVARE」の運用を開始

本年9月、東京都江東区に建設したイノベーションと人材育成の拠点「温故創新の森 NOVARE（ノヴァーレ）※」の一部運用を開始しました。

当拠点は、当社の長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」の実現に向けた事業構造・技術・人材のイノベーション推進の場、社会とのコミュニケーションを図る場として整備したもので、来春には当社の歴史資料展示施設等を含めた全施設が稼働する予定です。

当拠点を活用して、多様なパートナーとの共創、建設事業の枠を超えた活動を実践し、レジリエント・インクルーシブ・サステナブルな社会の実現に貢献できる人材を育成していきます。

※ラテン語で「創作する、新しくする」という意味



施設外観（左：体験型研修施設「NOVARE Academy」、
右：情報発信・交流施設「NOVARE Hub」）

イノベーション拠点「温故創新の森 NOVARE」
の運用を開始



■ 第64回「BCS賞」を受賞

日本建設業連合会が、毎年国内の優れた建築物を対象に、建築主、設計者、施工者による「三位一体」での取り組み過程を重視して選定する「BCS賞」。本年は、当社の保有施設（当社設計施工）2件を含む、当社の施工施設4件が受賞しました。

日本女子大学
目白キャンパス
再整備



大阪大学
箕面キャンパス
外国学研究講義棟

当社施工

当社設計施工

施設名	概要
日本女子大学 目白キャンパス 再整備	創立120周年の目白キャンパス再整備計画。キャンパス全体で、主体的学習を支援するラーニングコモン化を目指し、開放的な学習空間を創出。
大阪大学 箕面キャンパス 外国学研究講義棟	「地域に生き世界に伸びる」という大学のモットーを具現化し、境界を消し、まちに開かれたグローバルでサステナブルなキャンパスづくりを実現した。
清水建設 北陸支店新社屋	「超環境型オフィス」として、ネットZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）を実現。またBCP対応等の必要時に利用する水素エネルギー蓄電設備「Hydro Q-BiC®」*を実装した。
ミチノテラス豊洲	当社開発施設。オフィスとホテルに、駅と水際を結ぶデッキとバスターミナルを融合し、回遊性と拠点性を創出。国土交通省より日本初の「都市型道の駅」に認定された。

*Hydro Q-BiCは、日本における当社の登録商標です

■ 第6回「JAPANコンストラクション国際賞（国土交通大臣表彰）」を受賞



ガーナ国際回廊改善計画（テマ交差点）

国土交通省が「質の高いインフラ」の象徴として、日本の強みを発揮した海外建設プロジェクト等を表彰する「JAPANコンストラクション国際賞」を、当社が施工した2件のプロジェクトが受賞しました。受賞した「ガーナ国際回廊改善計画（テマ交差点）」では、近年の交通量の増加により慢性的な交通渋滞が発生していたテマ交差点に、新交差点の立体化を実現することで、円滑な物流の促進に寄与しました。今後も世界各地の成長に、インフラ建設で貢献していきます。

<受賞プロジェクト>

- ガーナ国際回廊改善計画（テマ交差点）（ガーナ）
- カチプール・メグナ・グムティ新橋建設及び既存橋改修工事（バングラデシュ）[JVサパ]

■ 平瀬ダム

日本三名橋の一つ「錦帯橋」が架かる山口県錦川上流に堤高73m、堤頂長300mの多目的ダムが完成しました。錦川流域では、繰り返し甚大な洪水被害を受けている一方、錦川の豊かな水流は、かんがい用水や都市用水として広く利用されています。治水・利水の両面で重要な役割を担う当ダムが、地域住民に親しまれ、安全・安心をもたらすことが期待されます。



ダム全景

工事概要

所在地：岩国市錦町広瀬地内
発注者：山口県
設計：株式会社建設技術研究所



堤体コンクリート打設の様子。軽量バケット（写真中央の黄色の容器）の開発で打設能力を10%アップした



堤体の夜間照明に光の拡散を抑制するLEDを使用。民家への光害を防止した

お客様から

ダムのイメージアップに 貢献



山口県土木建築部
錦川総合開発事務所
所長
宮原 宏夫様

岩国市錦町では、2005年の豪雨による錦川の氾濫被害があり、当事業の背景には、水害を防止し人命を守りたいという思いがありました。

自然豊かな地での工事のため、夜間照明を光の拡散を制御するLEDにして民家への光害を防いだほか、御社には様々な配慮をいただきました。

また、イベントや見学会などを通じて地元住民と良い関係を構築され、ダム全体のイメージアップにも貢献したと感謝しています。完成を迎え、ようやく住民の安全安心を確保できると安堵しています。

地域密着のあるべき姿を学んだ

技術提案型入札にあたり、コンクリートの製造・打設・養生方法や水質保全対策などを提案。有効性が評価され当社JVが落札しました。

当ダムの現場見学会には地元の方々を含む延べ1万人が参加。ダムへの理解を深めて地域活性化につなげたいという思いは、現場、お客様、地元の方々で一致していたと思います。この現場を通して、地域密着のあるべき姿を学びました。



営業担当者
営業部 営業課長
大槻 直紀

地元の方々に感謝

施工に際して注力したのは、膨大な水圧がかかる堤体コンクリートの品質確保です。凝固時に発熱するコンクリートは、外気との温度差が大きいとひび割れリスクが上昇するため、材料をあらかじめ冷却するプレクーリング工法を採用、ひび割れ監視システムでリスクを可視化しました。

着工から9年、私たち工事関係者を暖かく迎え入れて下さった地元の方々には感謝しています。新しく生まれたダム湖「^{さるとびこ}猿飛湖」が住民の安らぎになればと願っています。



工事長
青山 晋一

ダム工事の意義を実感

コンクリートの製造と品質管理を担当しました。

印象に残っているのは2018年7月の西日本豪雨。現場内の機械や材料などが水没、錦川の流水が堤体上流側に侵入し、堤体約20mまで溜まりました。下流では浸水被害が発生し、施工中の当ダムがなければ被害は拡大しただろうと、工事の意義を実感しました。今後も専門性を高めながらダム建設に携わりたいと思います。



施工担当者
平井 恵梨

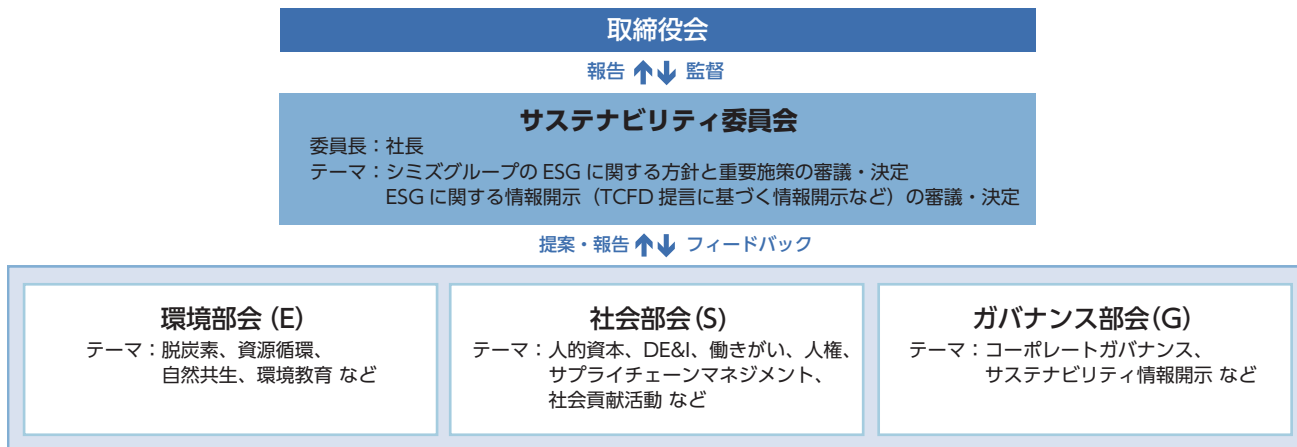
ESG経営への取り組み

気候変動や人権問題など、グローバルな社会課題が顕在化・深刻化している中で、企業が長期的に成長していくためには、サステナビリティ（持続可能性）に配慮した経営を行うことが不可欠です。

当社はESG経営を推進し、事業活動を通じて社会的責任を果たすことで、ステークホルダーからの信頼を高めるとともに、中長期的な企業価値の向上と持続的な成長を実現します。

サステナビリティ（ESG経営）推進体制の強化

当社は、サステナビリティへの取り組みを強化するために、本年4月、従来の「SDGs・ESG推進委員会」を改編し「サステナビリティ委員会」を設置しました。本委員会では、当社グループのESGに関する方針と重点施策などの審議・決定を行います。また、本委員会の下部組織として設置した、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の各部会では、それぞれが対象とするテーマについて当社の企業価値を向上させるための方策を検討しています。



マテリアリティの特定

当社は、SDGsをはじめとする様々な社会課題や当社の社是、経営理念、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」などを勘案し、「社会への影響度」と「自社にとつての影響度」の2つの側面から、重要度を検討のうえマテリアリティ（重要課題）を特定し、サステナビリティを強く意識した事業活動を推進しています。

マテリアリティ（重要課題）



関東大震災から100年 最新の防災技術を発信

本年7月に当社技術研究所において「関東大震災100年 地震体験セミナー」を報道関係者向けに開催しました。研究所内の大振幅振動台「E-Spider」で、当時の揺れを体感してもらうとともに、当社が開発した最新の制振システム「BILMUS」が採用された場合の揺れの軽減を体感していただきました。

本セミナーの様子がメディアで紹介され、多くの人の防災意識が高まるきっかけとなりました。当社は今後も、防災・減災技術の研究開発などの取り組みを通し、社会に貢献していきます。



「関東大震災100年 地震体験セミナー」の様子

大規模商業施設でZEB Ready認証を取得

当社が設計施工で手掛けた愛知県の大規模商業施設「イオンモール豊川」が、「ZEB Ready」認証を取得しました。10万㎡を超える商業施設での同認証の取得は全国初です。

当施設は、全ての外部ガラスにLow-eガラス※を採用し断熱性を確保。商業施設としては珍しく自然換気を積極活用しています。また、AIカメラにより人の動きを分析する換気・空調制御も取り入れるなど、施設全体で54%の省エネルギーを達成し、年間のCO₂排出量を約4,900t削減できる見込みです。

※Low-e膜といわれる特殊な金属膜でコーティングされたガラス。低放射性能に優れ断熱性が高い



総床面積約11万3千㎡を誇るイオンモール豊川の全景

シミズの人財戦略

本年4月に、新たな組織として人財戦略部とDE&I※推進部を設置しました。人財戦略部は、経営戦略と人財戦略を連動させ、企業成長へ繋げることに取り組んでいます。また、DE&I推進部では、社内のジェンダー・ギャップ解消を目的とした「シン・ダイバーシティ」活動や、障がいのある人財の活躍推進を目的とした「チャレンジフォーラム」など、様々な施策を行っています。

今後も従業員エンゲージメントの向上と職場環境の整備に注力していくとともに、多様な人々が活躍できる人財マネジメント体制を構築していきます。

※ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）&インクルージョン（包摂性）



継続して実施しているシン・ダイバーシティ活動

当社グループの主なニュース

2023年4月～11月の当社グループの主なニュースをご紹介します。タイトルをクリックいただき、参照リンク先からご覧ください。

■ 建設事業

- ・復元整備工事中の首里城正殿で立柱式
～正殿の建方（骨組）工事がいよいよスタート～
- ・山岳トンネル工事における最適発破自動設計施工システムを開発
～切羽を見える化し、発破設計と穿孔作業工程を自動化～

■ 非建設事業

- ・BLUE WINDが石狩湾新港で8MW風車14基を組み立て
～許容誤差数ミリの精緻な組み立てに対応～
- ・PFAS汚染土壌の浄化試験を米国内で開始
～PFOS/PFOAを含む実汚染土壌に当社独自の土壌洗浄技術を適用～

■ SDGs・ESG

- ・本社ビルで使用エネルギーの「ゼロカーボン」を実現
～カーボン・オフセットにより熱・ガス由来のCO₂排出量を実質ゼロ化～
- ・現場事務所も木造化
～環境に優しい木造仮設建築「SHIMZ CYCLE UNIT」を展開～
- ・令和5年度大阪府カーボンニュートラル技術開発・実証事業
採択と参画企業の拡大
～大阪・関西万博に向けたリニューアブルディーゼルの建設・輸送分野での活用～

■ DX

- ・AIでZEBの設計業務を代替！
～設計業務の効率化と高度化という背反する課題を解決へ～
- ・AI・IoTを活用して造成工事の施工管理をデジタル化
～土砂運搬の作業進捗を一括管理して業務効率を向上～
- ・「デジタルトランスフォーメーション銘柄（DX銘柄）」に3年連続で選定

■ グループ経営

- ・カーボンネガティブを実現する脱炭素アスファルト舗装の共同開発に着手
～アスファルト合材にバイオ炭を混合し、排出量を上回る炭素を貯留～
- ・丸彦渡辺建設株式会社の株式取得（子会社化）について
- ・PC道路橋床版の製造ラインをグループ会社「エスシー・プレコン」に新設
～部材の安定調達により、高速道路床版取替工事への対応力を強化～

■ その他

- ・「シミズコーポレートレポート2023」を発行
- ・歌舞伎座・新開場10周年を記念し新緞帳「春秋」を寄贈

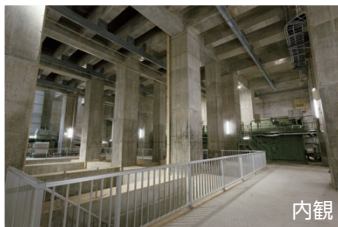
おすすめコンテンツ

■ コーポレートサイト（特設サイト）

- ・温故創新の森 NOVARE
- ・Shimz Human & Tech Magazine ヒトワザ！
- ・シミズの木質建築
- ・清水建設江東ブルーシャークス

■ 当社のSNS（公式アカウント）

- ・Instagram 現場図鑑
- ・X 清水建設株式会社【公式】
- ・YouTube 清水建設公式チャンネル
- ・Facebook シミズ・ドリーム



内観



主な完成工事

左上：(仮称) 医誠会国際総合病院新築工事 (大阪府)
発注者 医療法人医誠会

左下：石巻市石巻中央排水ポンプ場他1施設復興建設工事その2 (宮城県)
発注者 日本下水道事業団

右上：TIAD, AUTOGRAPH COLLECTION新築工事 (愛知県)
発注者 株式会社日本セレモニー

右下：ニプロ株式会社 大館工場第7工場新築工事 (秋田県)
発注者 ニプロ株式会社

清水建設株式会社

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号
TEL 03-3561-1111 (大代表)
<https://www.shimz.co.jp/>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。

